

（午後1時2分 再開）

議長（上田順康君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番3、15番 杉本君。

〔15番（杉本雅英君）登壇〕

15番（杉本雅英君）議長の許可を得ましたので、ただ今より壇上から一般質問を行わせていただきます。

まず、改めまして、本格的な本予算に向けての6月議会の一般質問、並びに市政運営のかじ取りに相当なご決意で臨まれていることは、私たちの胸に力強く伝わってまいります。あわせて新市長の手腕と実行力に信頼と期待を寄せている一人でございます。よろしくお願いたします。

それでは、はじめに防災関係の質問をさせていただきます。その前に、先月の5月27日にインドネシア、ジャワ島中部で起こった大地震により、5,700人以上にのぼる人々が亡くなられたことに対しまして、心より深く哀悼の意をあらわし、お悔やみを申し上げたいと思います。また、3万6,000人を上回る負傷者の方々の一日も早い回復を願うものであります。

さて、新市が発足して早くも3カ月余がたちました。私はこのたび、新市が誕生したことを契機として、何物にもかえがたい市民の生命と財産を守るといった基本的な観点から防災という面を見直し、改めて現在の状況をつぶさに検証し、再度、防災の強化に対する取り組みを考えなければならないと思うのであります。また、阪神大震災から11年がたった今、新市としてあの震災からどのような貴重

な教訓を取り入れようとしているのか、また、あるいは取り入れたのか、どんな小さなことでもあれば、参考にお聞きしたいと思うわけでありませう。

まず一つに、大地震が来たときの初動体制と避難誘導はどのように行われ、避難場所の確保とその表示はどうなっていますか。

二つ目に、災害後の給水、食料、毛布等、災害必需品の備蓄はどのようになっているのか。また、民間企業との連携と協力等の打ち合わせ、あるいは協定などは行われておるのか。

三つ目には、市民防災意識の向上と啓発については、どこまで危機意識が高まっているのか。また、民間の自主防災組織の現況と進捗状況についてお聞きしたいと思います。

四つ目には、公共建物の耐震診断と、その耐震設備、あるいは補強等の進捗はどういう状況であるか。地震災害は多種多様にわたるので、まず、どこの部課が中心として担当していくのか、それとも新しい地震災害部なるものを設置して、そこを中心として危機管理をしていくのか、その辺も大きな課題と言えるのではないのでしょうか。

五つ目に、市民向け防災無線の設備の充実と緊急放送連絡体制の一刻も早い整備が望まれていると思いますが、この点はいかがでございますでしょうか。

六つ目に、現在の消防団組織の関係者につきましては、市民の安全を日夜にわたり、獅子奮迅のご努力により私たちを守ってくださっていることに対し、敬意と感謝を申し上げたいと思います。そこで、このたびの合併により、組織の設備の面で、より良好な初期消

火のための必要設備である携帯無線の完全配備について、一刻も早い整備が望まれておりますけれども、その点をお聞きしたいと思います。

次に、私が最近、特に目立って感じ始めたのは、まちの中の高齢者の方に接する機会が多くなったと感じることです。最近は何種の場合に出る機会が多くなり、その場でも高齢化が進んでいることを確実に実感しております。私の知っている友人の方の中でも、ひとり住まいの方や若い人と別住まいの方や、いわゆる高齢者の家族構成のみで生活をされているのを多く目にいたします。それらの方々の中には、体が最近不自由で困っておりますという声もだんだん聞かれるようになってまいりました。最近では、ある一面での便利さは若い人には享受されていますが、ある一定の年齢から上の方は、その便利さについていけず、社会の成り行きにおぼれているという一面があります。行政上から言うとあってはならないことであります。

しかし、現実として外出困難な人は増えてはいないだろうかと考えたとき、これからの社会生活の中で、行政側から住民に足を向けるという発想が生まれてもおかしくないのではないかと思うのであります。そこで、外出の大変な人のサポートをする意味で、公的な証明書などの宅配サービスをさせてもらってはいかかなものかとお尋ねをしたいと思います。

まず、数字で現状を把握する意味で、65歳以上のひとり暮らしの老人は何人いらっしゃいますか。そして、65歳以上の寝たきりの老人は何人おられますか。また、65歳未満の寝たきりの障害者は何人おられますか。お答えいただきたいと思います。

また、今後10年後の高齢化社会を考えたとき、その必要性について、市長はどのような

お考えをお持ちであるかをお聞きしたいと思います。

次に、合併を境に、高野口小学校の改築・改修について、工事計画の進捗についてお尋ねしたいと思います。当初の予定では、今年の8月以降には工事着工の予定とのこと聞いておりましたが、現状はどのように進んでいるのかお尋ねしたいと思います。

もし、若干の変更があるとすれば、保護者や学校関係者、あるいは建築にご意見を伺った方々に、それぞれ説明はなされているのか。また、改築・改修をするので、必要に迫った修繕を延ばしてきた経過の中、どのように理解を得ていくかお答え願いたいと思います。その上、どうしても変更せざるを得ない事情があるとするれば、十分納得のいく説明を、市長並びに教育委員会の考えと理由をご説明願いたいと思います。

以上で壇上からの質問は終わらせていただきます。

議長（上田順康君）15番 杉本君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）杉本議員の防災体制の現況についてお答えをいたします。

お話がございましたように、平成7年1月17日でございましたか、阪神・淡路大震災、午前5時何分という、かすかに記憶がございます。それからはや11年をも経過いたしましたところでございますが、日本は中国と違いました非常に地震の多い、多発する国であると受けとめておるところでございます。そうした面から本問題については大変重要なことでございます。

さて、橋本市は、その位置や地形など自然条件から台風、豪雨等による風水害に見舞われ、家屋への浸水、道路・河川の決壊、山肌

の崩壊などの被害を受けてまいりました。また、今世紀前半での発生が懸念される東南海・南海地震による大きな被害が危惧されている中、これらの被害を最小限に抑えるため、鋭意努力しているところでございます。

大規模災害発生時における職員の体制ですが、災害対策はいかにして初動体制を確立するかが大きなポイントとなるため、橋本市地域防災計画に基づき、災害時職員の配備体制を確立するとともに、呼集訓練、呼んで集めるということですね、呼集訓練をはじめ、徒歩による参集訓練を実施し、災害時の初動活動強化を図ってきたところでございます。

幸いにして本市職員は、橋本市を中心とした近隣市町に集中しており、迅速な対応が図られると考えておりますが、近い将来、高い確率で発生が予想される東南海・南海地震災害をはじめ、風水害など大規模災害発生懸念時に、参集命令がなくても市職員の的確な初動対応を再認識していただくため、職員初動マニュアルを作成し、平成17年度で全職員に配付し、災害時の行動について徹底を図っております。

初動マニュアルでございますけども、ちょっとこれ配付してくれる。

また、橋本市はその地形から、避難所への経路は狭隘で急勾配な道路が見受けられ、有効な経路となり得ない箇所が比較的多く、避難誘導標識を現在のところ設置しておりませんが、職員が災害の状況を十分踏まえ、安全に誘導する体制をとっており、避難場所の対応についても、日頃より各学校の管理者及び開放責任者を定め、24時間いつでも対応できるよう、また、職員を派遣し、避難者の受け入れが図れる体制をとっておりますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

次に、災害時の給水、食料等の配付と備蓄についてでございますが、避難者に対する食料

や生活必需品については、現在、非常食2万7,450食、保存水1.5リットルペットボトル3,900本、学校等プールの水を利用し、1時間に2トンの水を浄化できる造水器を1基備蓄し、また、市内の大型店舗との間に災害時における物品の供給協定に関する協定を、河内長野市、五條市との間に、災害時における相互応援協定をそれぞれ締結し、災害時の物資を確保でき得る体制をとっております。また、保存年限のあるものについての備蓄品も、多量に抱えることもなく、局地的災害時には非常に有効な協定であります。

しかしながら、大規模災害時には同時に災害に遭うおそれがあるため、より効果のある協定を考えるとともに、同じ災害での影響が少ない自治体との中・遠距離相互応援協定も視野に入れ、調整を進めているところでございます。

次に、市民防災意識の啓発と民間の自主防災組織の現況と進捗についてであります。防災対策のために膨大な経費を費やしたとしても、大規模な自然災害を完全に防ぐことは非常に困難なことであることから、自分たちの地域は自分たちで守るという意識を共有した自主防災組織の育成強化をはじめ、災害時の心得など、自助・共助の重要性、防災の基礎知識について、積極的に防災啓発活動を展開し、地域の防災対応能力の向上を図ってまいりたいと考え、現在、市民安全課において専任職員を配置し、地域防災組織の結成を急いでおるところであります。

また、公共建物の耐震対策については、耐震診断率で20.3%と極めて低く、今後の課題の一つであると考えております。

次に、防災行政無線につきましては、大規模災害時、市民に防災情報を緊急かつ一斉に伝達し、刻々と変化する災害状況について、適切な情報を迅速に提供でき、災害時に住民

の生命及び財産を守り、被害の拡大を防ぐための重要な設備であることから、平成18年度において、経済的かつ効率的で先進的な相互防災情報システム整備を進めるための基本設計を実施し、地方財政厳しい折ではありますが、できるだけ早い時期に、設計に続いて構築してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

橋本市においては、今世紀前半での発生が懸念される、前段申し上げた地震をはじめ、台風、豪雨による風水被害に対し、過去の災害で得た教訓と想像力を生かして、災害に強いまちづくりを進めてまいりたいと考えますので、ご指導、ご協力のほど、よろしく願いを申し上げます。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えいたします。

議長（上田順康君）教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

教育長（森本國昭君）高野口小学校改修についてお答えいたします。

高野口小学校改修につきましては、現在の木造校舎を生かしての計画、設計がなされており、2月末で設計が完了しております。18年度から幼稚園、屋内運動場、プールの新築工事に着手し、高野口小学校校舎の改修も含め、3カ年での事業計画が旧高野口町で計画されていまして。

3月1日から、新市の予算編成等の会議でこのことについて審議され、木造の校舎を生かしての改修については否定するものではありませんが、各学年ごとに設けられているオープンスペースやランチルーム、また、プールを2階にし、1階に屋内運動場使用者を含めて使用するシャワールーム、地域触れ合いコーナー等々、他の学校にない施設を有する設計になっております。幼稚園についても少子化の折、本設計では校舎外に新築設計され

ております。

しかし一方、保育所については旧高野口町でも統合が検討されており、幼保一元化施設としての検討も加えてみてはとの意見が出されました。結論では総事業費約19億円のうち、一般財源が約15億円の負担が財政的に非常に厳しく、18年度は着工計画を見送り、設計内容を見直すことになりました。

次に、保護者、学校関係者等への説明ですが、16日に旧高野口町で組織されていた高野口小学校建築委員会の委員に、また、20日に高野口小学校保護者の方々に説明をいたします。また、修繕については他の学校との均衡を考慮し、計画をしていきたいと考えております。

いずれにいたしましても、高野口小学校の改修そのものの計画中止ではなく、平成14年度から取り組みをされてきた設計の基本は踏襲しつつ、設計内容を見直し、19年度以降に着手できるよう、市当局や関係者とも十分協議してまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

議長（上田順康君）消防長。

〔消防長（梶川英男君）登壇〕

消防長（梶川英男君）消防団への無線機の配備につきましては、迅速な情報連絡体制を確保することが重要であることから、平成18年度において、消防団用無線機の購入予算を計上いたしました。

内訳は、基地局1、橋本方面隊の車載無線機26台、団幹部用携帯無線機10台を予定し、既に無線機を配備している高野口方面隊にあつては、災害による指揮命令が異なることから、一体的な消防活動を行うため消防波の増波を計画しております。

以上でございます。

議長（上田順康君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（上田敬二君）登壇〕

健康福祉部長（上田敬二君）橋本市の高齢人口、平成18年3月末現在でございますが、1万4,231人、高齢化率は20.4%です。現在、65歳以上のひとり暮らしは2,399人、また65歳以上の寝たきり老人は446人で、うち、ひとり暮らしの寝たきりは84人。また、65歳未満の寝たきりの障害者の方は35人います。

今後も高齢者が増加する傾向にあり、本市といたしましては、福祉サービスをめざす観点から、一人で外出できない高齢者を対象にして、本人から電話で時間内に住民票や印鑑証明等の予約を受け付け、勤務時間外に、職員の住んでいる対象地域に帰宅途中お届けする宅配サービスを実施することは、高齢者や障害者に対する良心的なサービスであると考えられます。

また、このようなサービスは全国のいくつかの自治体で既に取り組みされておりますが、本市については、取り組むにあたってのニーズ把握や地域の実情の分析など必要かと考えております。

また、職員については、大切な証明書を預かる責任もあり、先例市の状況を見ながら研究してまいります。ご理解をお願いいたします。

議長（上田順康君）15番 杉本君、再質問ありますか。

15番 杉本君。

15番（杉本雅英君）今、るる各関係者の方に答えていただきましたけれども、私のほうからは再質問として、最初、市長もお答えになった点ですが、避難誘導、いわゆる避難場所、これはちゃんと17年度のマニュアルでそういうふうに確立されているというお話でしたけれども、避難誘導の表示については、高野口町も含んでの橋本全体として、その点はどんなふうになっているかということをお聞かせ願いたいと思います。

それから、一つ一ついきますので、よろしくお願いします。

議長（上田順康君）総務部長。

総務部長（中山哲次君）まず避難誘導、避難場所ということですが、旧橋本市内の避難場所につきましては26カ所、旧高野口町の避難場所におきましても、同じく26カ所指定をしてございます。これについての住民への周知方法につきましては、橋本市におきましては、2005年に作成いたしました防災ハンドブック、これなるものを市民の方々に配付させていただいております。また、旧高野口町におかれましても、高野口町の防災マップということで、市内の家庭のほうへ配付させていただいております。その中で、地図上で場所等については住民の方々への周知徹底をされておるといってございませぬ。

ただ、ご質問いただいております地形的に道路上等々への表示については、今すぐ完全に徹底されておるわけではございませぬので、今後の大きな課題ということで考えております。今後検討させていただく必要があるかと考えております。

以上、ご答弁させていただきます。

議長（上田順康君）15番 杉本君。

15番（杉本雅英君）それから、次に、市長もお答えになったように、災害時の備蓄の面で企業との協定が結ばれておるといってお話でございましたけども、この点につきまして、3市の広い範囲での協定ということはわかるんですが、まず、橋本の地元の企業さん方の、いわゆる身近な企業との連携といえますか、その辺の連携についてはもっと具体的になされておるのか、その辺がちょっとお話を聞かせていただいて不安な点もありますので、その辺の、地元との密接な連携、いわゆる協定につきましては、具体的なものができておるのか、ちょっとお聞きしたいと思っております。

議長（上田順康君）総務部長。

総務部長（中山哲次君）お答えさせていただきます。

まず、地域防災計画を、現在、旧橋本市におきましても防災計画を策定してございます。この防災計画につきましては、当然、合併をいたしましたので、旧高野口町、旧橋本市、新橋本市におきまして総合的に防災計画の策定の見直しをする必要があるということで、今回、予算計上もさせていただいております。議決後におきましては早急に取り組みに対応させていただきたいと考えております。

その仮称地域防災計画の中にも、地元企業、地元のスーパーのご協力企業を得まして、備蓄、非常食等の提供をいただけるように現在も協定を結んでございます。そういうことで、当然、新橋本市における、地域内における各商店街、スーパーの方々との再度見直し、検討を行っていききたいというふうに考えております。

また、余談になるわけでございますけれども、非常用食料につきましては、購入年月日も意図的にずらしまして、当然、賞味期限ということも考えられますので、購入年月日につきましてはずらしもて購入をし、備蓄をさせていただいております。それも市内一円の公共施設に分散して備蓄をさせていただいております。当然、その保存食につきましては賞味期限が迫ってまいります。そういった分につきましては、今までもそうでしたが、今後もそうなんです、市内のそうした自主防災訓練等々で市民の方々に試食、試飲していただいて、より防災意識を高めていただくというふうに考えておまして、過去にも実施してきてございます。

今朝方も九州のほうで地震が発生したというようなことを聞いておりますので、当然それも踏まえまして、できるだけ早い時期に体

制づくりに取り組んでまいりたいと考えております。またよろしくご指導をお願い申し上げます。

議長（上田順康君）15番 杉本君。

15番（杉本雅英君）それで、次に私のお聞きしたいのは、5番目の市民向けの防災無線のことについてでございますけども、これにつきましては、伊都郡では九度山町なんかでしたら、体制としましてはスピーカーの避難誘導のそういう設備なんかやっておられるようです、どうやら聞いてみますと。デジタル化という、そういう近代的なあれではないんですが、そういう避難誘導のときの体制の、スピーカー放送とかということもできておるそうなんですけども、旧高野口町を含め、橋本市、かつらぎ町もできておらないと聞いたんですかね。

そんなことで、要するに私どもの橋本市につきましては、この辺の大きな災害が起こったときの市民に対する誘導を、一番手短にできる誘導の体制といたしますか、物的なものなんですけど、そのスピーカーを各所に立てて、肝心なときの市民に対する緊急放送をやるというような体制ができてないという現状ですので、その辺につきましては、防災無線とあわせまして、どういう具体的な設計基準が、18年度で実施されるというように今お聞きしましたけども、その点につきましてはどのようになっているのか、ちょっとお聞きしたいと思えます。

議長（上田順康君）総務部長。

総務部長（中山哲次君）その件でございますけれども、確かに橋本市、旧橋本市、旧高野口町ともに、そういう放送、無線放送、防災無線については、整備が遅れてございます。そういうことで、今回、先ほども市長のほうからご答弁させていただきましたが、500万円の予算計上をさせていただいて、防災無

線の調査、基本設計委託料、今回予算要求をさせていただきます。

ちなみに18年度で、新橋本市内の地形的なものも含めまして、基本設計の調査をさせていただきたいというふうに考えてございます。ちなみに、今現在に至っておるわけでございますけれども、議員ご質問のとおり、アナログ電波のほうからデジタル電波のほうに切り替え時期にちょうど当たっておりまして、その電波の方向性等々、電波の性質から申し上げますと、やはり地形的にはデジタル方式の電波を利用するということがより効果的というようなことも、専門的なことも聞いております。

そういうことで、合併も控えてございましたので、合併を機に、平成18年度で基本設計を作成、検討させていただきたいということで現在に至っております。

以上でございます。

議長（上田順康君）15番 杉本君。

15番（杉本雅英君）それで先ほども、6番目の携帯無線につきましては、これは消火体制の備品の一部なんですけど、今もお答えしていただきまして、18年度にはきちっと旧高野口町、いわゆる伊都の消防体制と橋本の消防体制が矛盾のないように、一応、均一にされるということを言明されましたので、安心をいたしました。よろしくお願ひしたいと思います。

それから、次の公的証明書の件につきましてですけれども、これにつきましては、これから特に高齢化が進んでいると、同僚議員もそういうご指摘もありましたように、日に日に高齢化の状態がだんだんと進んでくるこの昨今ですけれども、そんな中で、やはり今も人数の発表がございましたように、橋本市全体としては、ひとり暮らしの老人、65歳以上は1,000人以上の、1,000人になんなんとする、

そういう数のご老人がいらっしゃると。また、寝たきり老人の方につきましては、200人近い方が厳然といらっしゃるということの現状の中で、やはり一日も早い、こういうお年寄り、いわゆる障害者を含めた、そういう方たちの公的証明書の不自由のないようにしていただきたいというのが私の願いでありまして、こういう話もちょこちょこまちのほうで聞かれますので、その辺のことも、随時調査を早くやってお願いをしたいと思っております。

それから、最後の高野口小学校の改築・改修の件につきましてでございますけれども、これにつきましては、中止ではなくて基本的に、基本線は踏襲しつつ着手していきたいと、このように教育長はおっしゃいました。それを聞いて安心はしているんですが、ただ、今年着工されるということが当初計画にあったのを後ろにずらすという、そういうことにつきましては、少々残念な点もあるんですけども、確実にこれは学校の改築・改修としてされるということが言明されておりますので、その点は遅ればせながらでもできるのかなというように確信を持って聞かせていただきました。

ただ、その計画の中の部分なんですけど、ぜいたくなつくりという見方をすればぜいたくかもわかりませんが、オープンスペースの削減だとか、またランチスペースの見直しとか、あるいはシャワールームの見直しとかという、いろんな部分的な、プールにしましてもそうだと思いますけども、その辺があると思うんですけども、その辺はあまり大きな計画変更されることを私どもは懸念しておるんですけども、その辺はできるだけ基本線に沿った計画にやっていただきたいというような思いでありますので、その辺を踏まえながらお願いしたいと思います。

ただ、最後に市長のお考えをちょっと聞か

せていただいて、私の質問を終わらせていただきたいと思います。

以上でございます。

議長（上田順康君）市長。

市長（木下善之君）幅広いご質問がございましたもので、その中で、高野口小学校の問題を再度お尋ねしておきますということでございました。

申しあげましたように、非常に財政が緊迫しておるところでございます、私からも申し上げたように、この防災につきましても、これはもう市民の安全・安心という中で、最優先しなければならない。あるいは学校は、これはもう児童生徒の教育の場でありますので、これも一日たりとも揺るがすわけにはまいりません。きょう、明日、あさっての3日間のことを皆のお話を予算化しますと、率直に言いまして、二、三十億、30億か50億ほど余計要ると思うんであります。それは本当に市民の皆さんの切ない思い、これをやはりしていくには、大変苦しい状況に私も追い込まれておるのが事実であります。

高野口の小学校の問題につきましても、私、和歌山大学の設計士の先生方、あるいは高野口町の育友会代表の皆さん、2度ほど市長室でお話し合いも十分聞かせてもいただき、よくわかったところがございますけれども、何分、申し上げた19億円、一つの学校で19億円要るとするのは私も今まで聞いたことがない。それで、若干の補助金がありますけれども、実際15億円は持ち出ししなければならない。

これは皆さん方、予算を見ていただいたら大変よくわかると思うんですが、この間からも高野口のほうの舗装のところも見させていただいたんですが、100万円ほどでできるところを継続せな仕方ないというところまで申し上げてきたんです。わかるでしょう。100万円の舗装をするのに2年かかる。本当に、泣き

言ではございませんけれども、実態はそこまで来ておるということの中で、舗装と学校と違うやないかというのは当たり前のことなんです。しかし、できるだけ19億円を引き下げるように、それをどこまである程度下げられるか。下げても非常に立派なものができるかということ、悩んでおるところでございますので、ひとつ設計の上で十分精査をさせていただいて、来年度から続いて3カ年計画という中で、基本的にはそういうことでよかったという立派なものを、内容の濃いものを構築していくように考えてございますので、ひとつお許しいただきたいと思います。

議長（上田順康君）15番 杉本君。

15番（杉本雅英君）もう一言。もう終わります。私もダイレクトに高野口の小学校ということでご質問させていただきましても、何も高野口、狭い範囲にとらわれているつもりは毛頭ございません。誤解のないように。全体に、これからは各教育の現場でのそういう改善、そういう面では、私もこれからるまたそういう面で目を配っていききたいなというふうに思いますので、橋本全体としての意味から申させていただきます。

それで、高野口の小学校も、今まで修繕せないかんとことを、待った待ったですと来たものですから、その辺の限度もある程度来ているということも視野に十分入れていただいて、ご答弁していただいたように私もとらえておりますので、また、よろしく願いしたいと思います。

ありがとうございました。

議長（上田順康君）これをもって15番 杉本君の一般質問は終わりました。